

○ 現行制度の改善又は拡充を求めるもの

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 再提案 (. . . 第 回総会 ; 市)		
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 現行制度の改善又は拡充を求めるもの <input type="checkbox"/> 新たな施策の要望又は提案を求めるもの <input type="checkbox"/> 特に市町村への財政支援策等を求めるもの <input type="checkbox"/> その他 ()		分野 <input checked="" type="checkbox"/> 総務文教 <input type="checkbox"/> 社会環境 <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 危機管理建設
要望先	<input type="checkbox"/> 国	担当省庁	
	<input checked="" type="checkbox"/> 県	担当部局	教育委員会事務局
	<input type="checkbox"/> その他	名称	
件名	7 外国籍児童・生徒に対する効果的な学習支援について		
提案市	小諸市		
提案要旨	<p>年々増加する外国籍児童・生徒の学習支援について、実情に応じたより効果的な支援体制とするため、現行の教員加配基準及び指導方法を訪問指導型に見直しすることを要望する。</p>		
提案理由	<p>県教委では、外国籍児童・生徒が多く在籍する学校への教員加配を実施しているが、配置校を指定した通級指導型であるため、配置校以外の児童・生徒が指導を受けるには、配置校への移動手段の確保が必要である。しかしながら外国籍保護者の多くは、日常の移動手段を持たず、通級が困難な場合が多い。</p> <p>近年、日本語理解が浅く継続した学習支援を必要とする児童・生徒が増えるとともに、在籍校数も増えている。このような状況下では通級型での対応には限界があるため、支援を必要とする児童・生徒在籍校を本務校、兼務校とする訪問指導型に見直すことで、実情に沿った支援体制になると考える。</p>		
現況及び課題等	<p>【小諸市 日本語学習支援が必要な外国籍等児童・生徒数及び在籍校数】</p> <p>(平成 30 年度実績) 小学校 3 校 10 名 中学校 1 校 3 名</p> <p>(平成 29 年度実績) 小学校 3 校 8 名 中学校 1 校 2 名</p> <p>※現在の支援状況 学校からの申請を受け、市が委託する教員資格のある支援員を派遣している。</p>		
法令関係			